

【小学生の保護者対象】
Withコロナでの小学校や放課後の過ごし方に関するアンケート結果

2020.7.27

【withコロナでの小学校や放課後の過ごし方に関するアンケート概要】

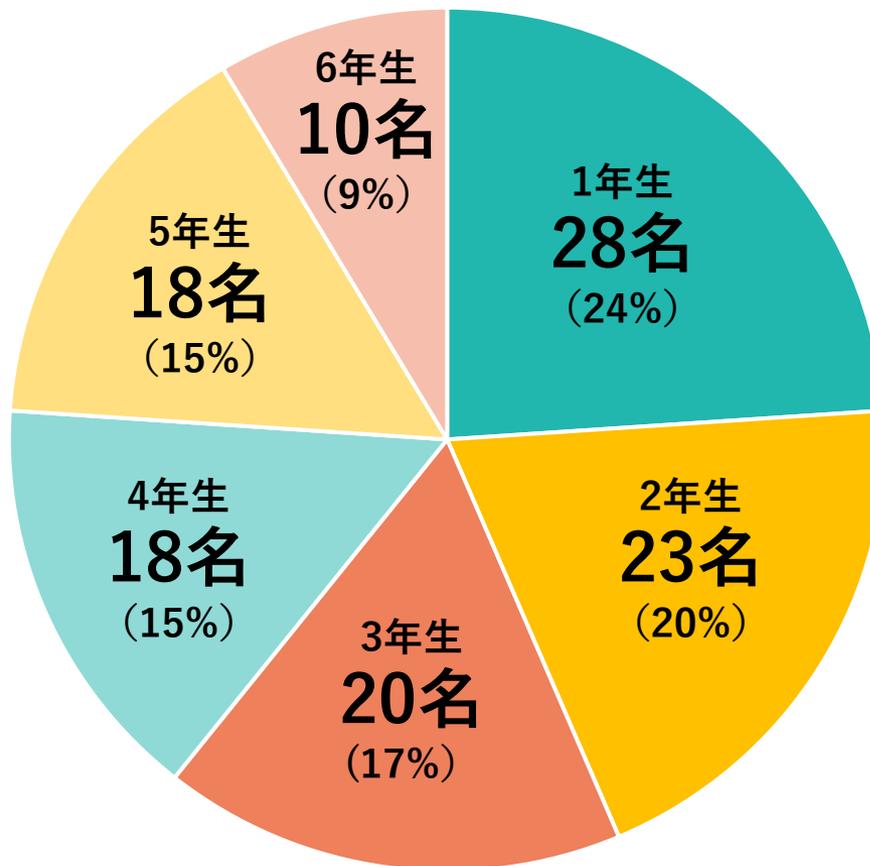
- 実施期間 : 6月25日（木）～6月30日（火）まで
調査方法 : インターネットでのアンケート調査（SNSにて広報）
対象 : 休校小学生のお子さんを持つ保護者の方
総回答数 : 82件

【回答者都道府県分布】

北海道	茨城県	埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	静岡県	
1名	1名	3名	43名	12名	9名	1名	
愛知県	大阪府	京都府	兵庫県	岡山県	福岡県		
1名	5名	1名	2名	2名	1名		合計 82名

お子さんの学年

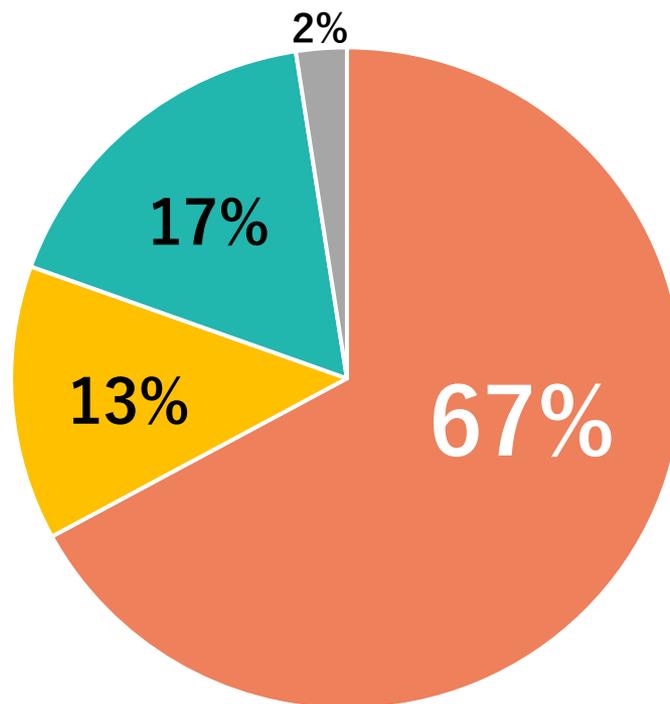
(ご兄弟を含めた子どもの数：計117名)



全体の **8割** が週5日間登校しているが、分散・時間短縮登校も。
都心部では週数日のみ登校しているケースも目立つ。

・学校への登校状況

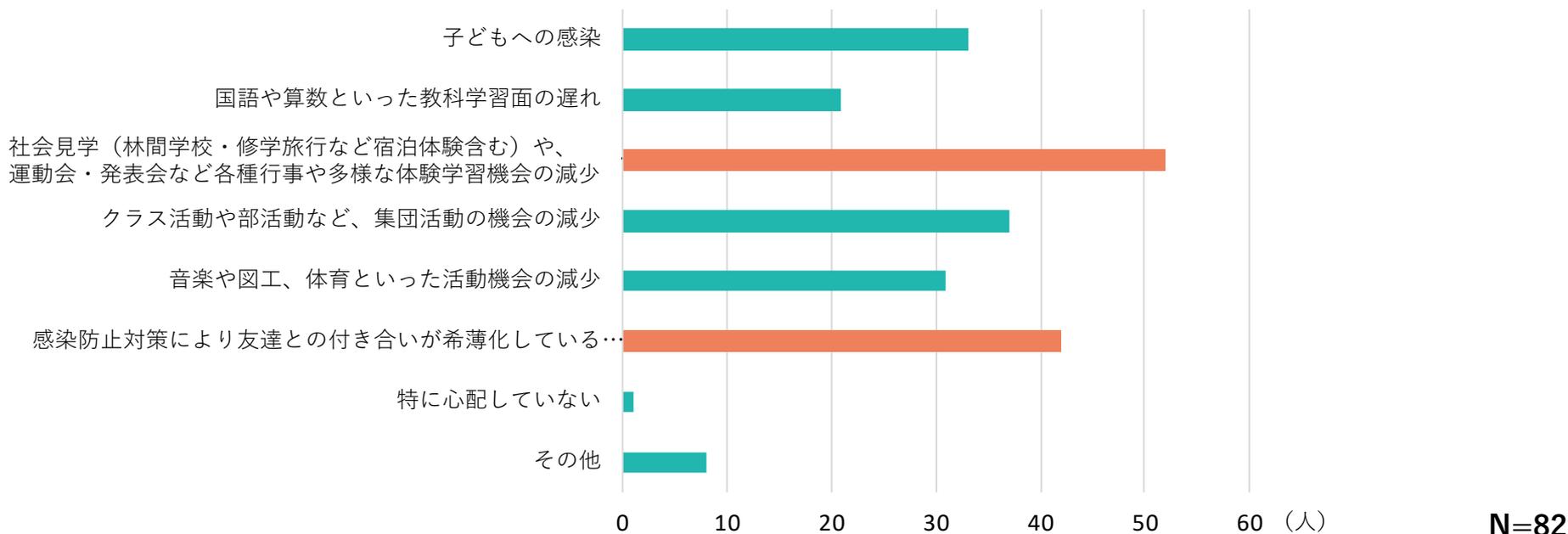
(2020年6月30日時点)



- 週5日、ほぼ以前と同じ時間割にて登校している
- 週5日、登校しているが、分散・短縮して登校している (午後のみ、午前のみなど)
- 週数日登校している
- その他

感染や学習の遅れ以上に友人関係の希薄化や学校行事等多様な体験学習機会の減少が心配。小1児童は特に関係性作りに課題

・学校登校にあたり、心配していることはありますか？（複数選択）

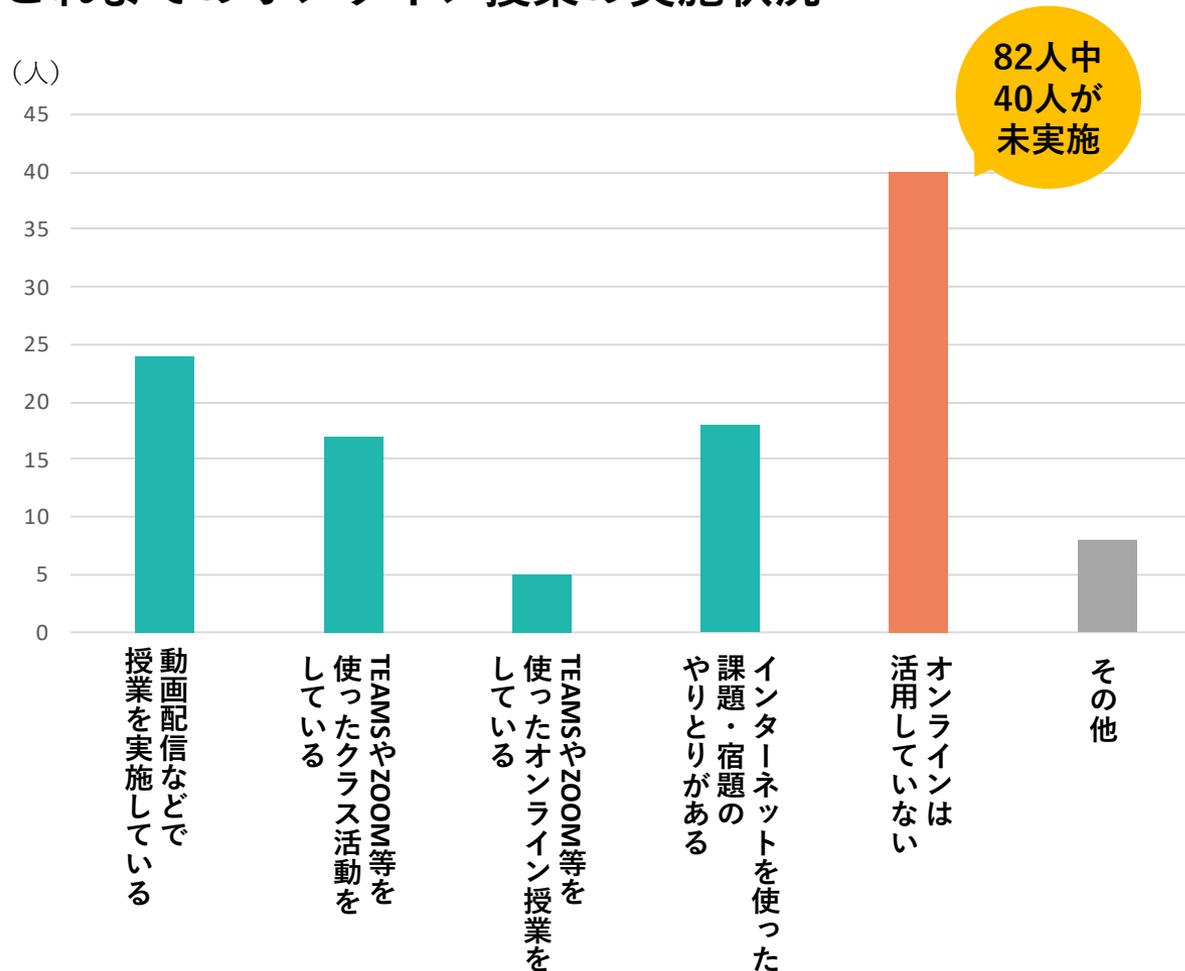


保護者の声

小1なので、学校がどんなところかを知る前に休み時間は静かに席に座っていること、給食は前を向いて静かになどの体験をしており、**新しい友達もできづらく学校がつまらない、行きたくない**と言っている。（中略）1年生は学校はしゃべってはいけないところだと学習しているのではないかと感じている。お友達とおしゃべりできるのが集団下校の先生がいなくなってからの数十メートルのみで、そこでお友達と話すことを楽しみにしている状況で、これからの**学校活動や子どものコミュニケーション経験不足による発達を心配**している。（東京都練馬区）

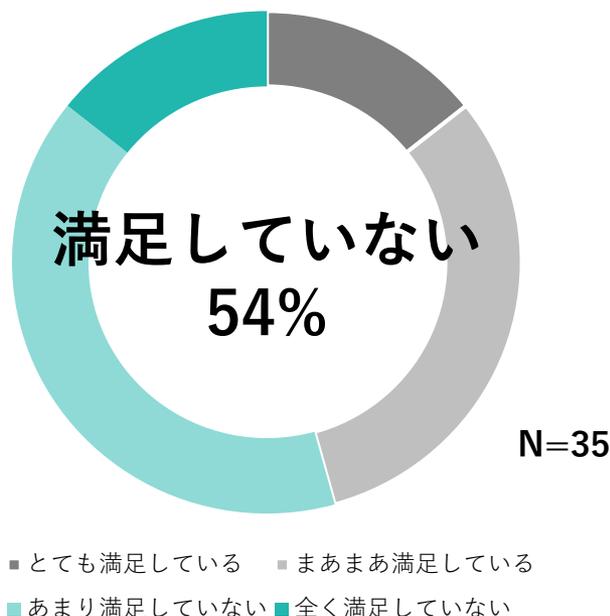
全体の半数がオンライン授業の実施なし。双方向型も模索

・現在またはこれまでのオンライン授業の実施状況



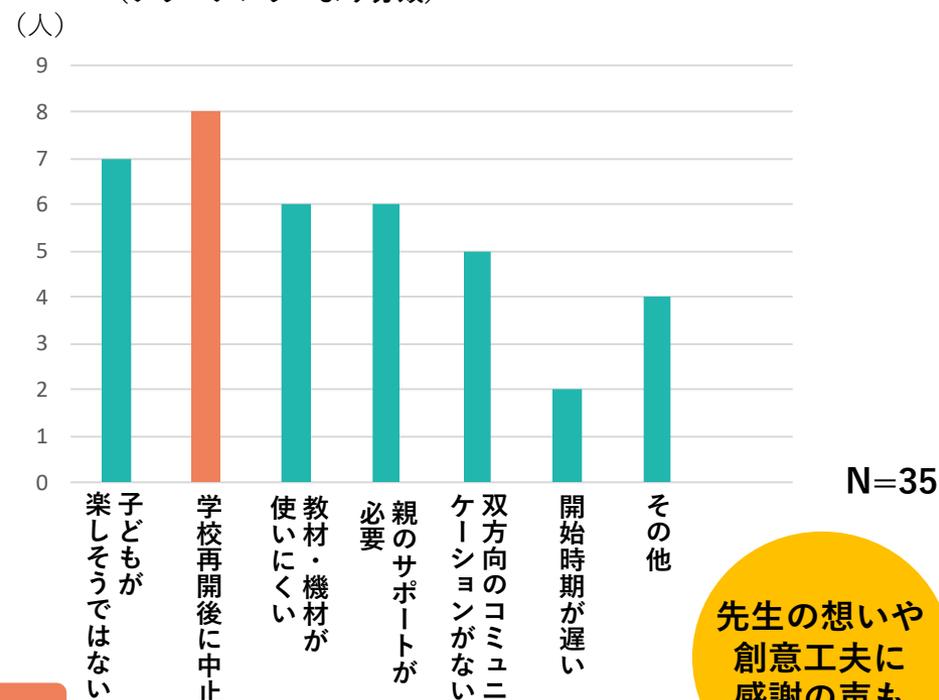
半数以上が現在の授業に満足していない
学校再開後中止の学校には、継続を願う声

・満足度



・満足していない主な理由

(フリーアンサーより分類)



保護者の声

通常登校開始に伴い授業配信は無くなりましたが、新一年生でまだ学校と言う世界を知らなかった息子が、まずはテレビ画面で担任の先生を知り、リビングで短時間ながら楽しく授業体験が出来たので、休校下での授業配信は大変ありがたかったです。おかげさまで本格的に登校が始まりましたが、わりとスムーズに新環境に入っていくことが出来ました。(兵庫県神戸市)

先生の想いや
創意工夫に
感謝の声も

・保護者フリーアンサーより

感染予防の大切さは分かりつつも、学ぶ上での活動が余りに制限されるのは少し心配です。声の掛け方一つでも子どもにとって先生の影響力は大きいので、大切にしてもらえるとありがたいです。（大阪府豊中市）

子どもたちも3月から休校が続き、久しぶりの学校生活にまだ心身が慣れない中、以前の学校とは異なる制約が多い環境に戸惑いを感じている様子です。学習の遅れを取り戻すことも大事かもしれませんが、**子どもたちの心のケア**も重視していただけたらと思います。（東京都文京区）

子どもたちのリアルの体験は可能な限り大切にしてほしい。一方で少しでも密を防ぐために**公開授業や保護者会など、保護者とのコミュニケーションにオンラインを積極的に使ってほしい**(説明会やPTA等で保護者を学校に集めないでほしい)（東京都豊島区）

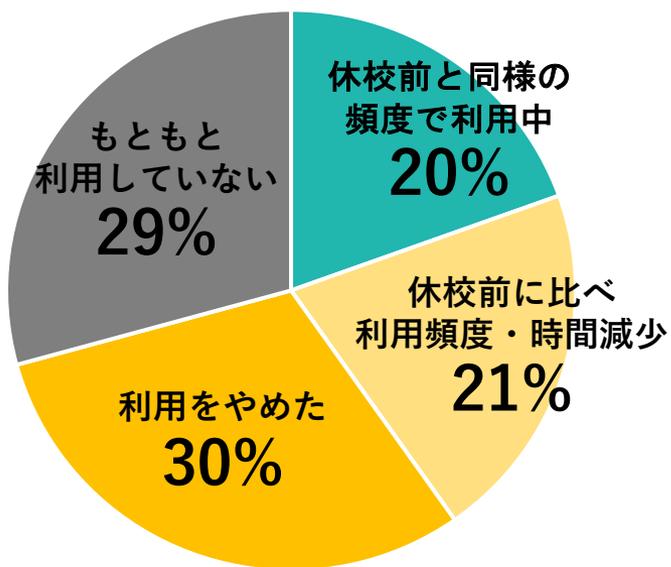
感染対策で大変だと思いますがコロナで「奪われた」ではなくコロナの**この時期だからこそできることを子どもたちや保護者、地域とともに考えてほしい**（神奈川県川崎市）

学校と一緒に模索してくれる姿勢に安心の声も！

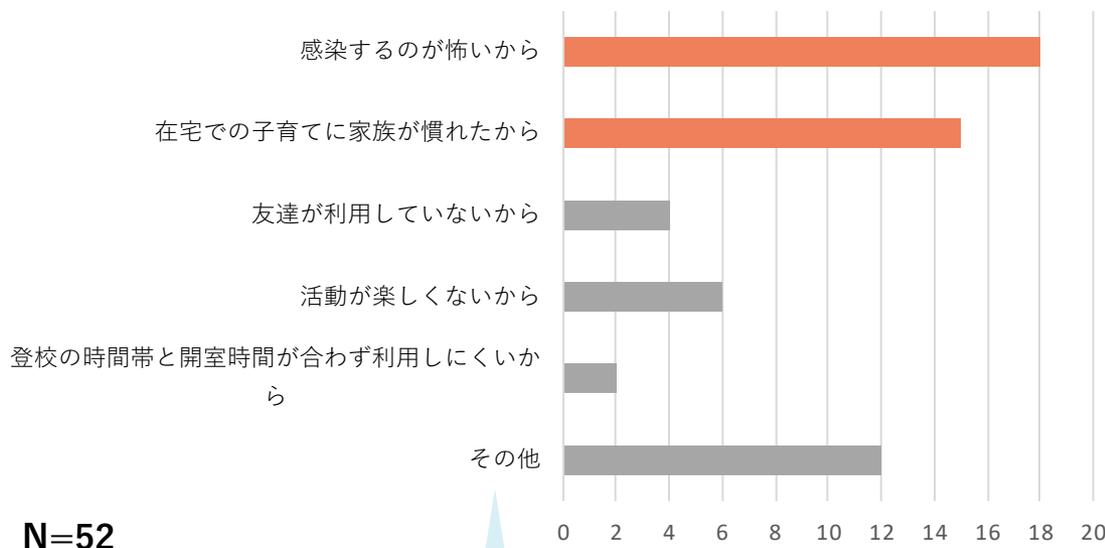
学ぶことの楽しさや友達と一緒に何かする楽しさなど、家庭だけでは難しい**人との関わりの中で生きる力や楽しみの部分を学べる場**であってほしい。幸い自治体や学校・担任の先生が学習の詰め込みでなく、ゆっくりスタートしてくださっていること、**行事等の価値にも言及したうえでできる方法を模索している様子**が発信からうかがえることで少し安堵しています。（神奈川県藤沢市）

感染症拡大を経て半数以上が放課後クラブの利用控えや退会
感染への心配・在宅子育ての適応も

・ 現在の利用状況



・ 利用頻度減少や退会の理由（複数回答）

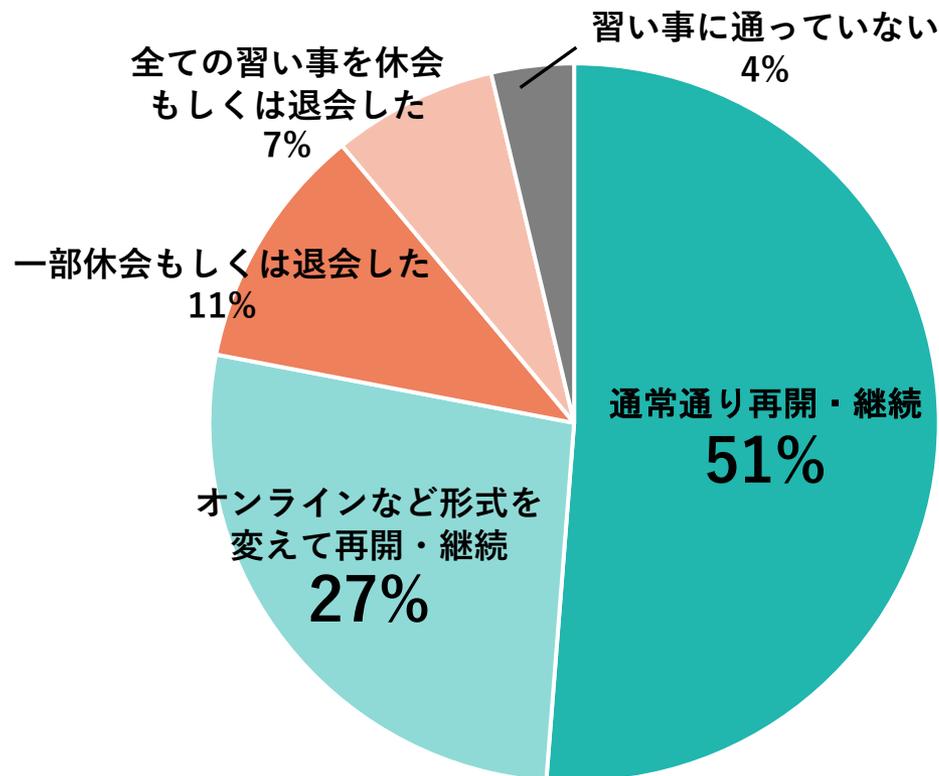


【その他の理由】

- ・ 自治体や放課後クラブ側からの自粛要請
- ・ 民間学童の利用費の経済的負担 など

習い事は早期に再開 継続している割合が高い

・他の習い事などの再開・継続状況について



保護者の声

放課後クラブは友達と過ごせること、習い事は学びを継続できることを大切にしてほしい（東京都品川区）

考察

習い事は少人数で実施していることも多く、早期再開可能なところも多かったように思います。学校休校期間中は特に繋がりや体験機会を求める声も大きく、非常に貴重なものでした。学びや遊びを諦めないために、学校・家庭ほか、それぞれが自分たちにできることを模索しています。

保護者の方が放課後クラブに求めること

・保護者フリーアンサーより一部抜粋

学童に行っている時間に思い切り友達と遊べることに親としてはとても価値を感じる。一方で、学童では就労家庭か否かによる制約があり、友達が行っていないから自分も行きたくないという状況も生まれているので、制約のない誰でも参加できる放課後の居場所の選択肢があるとよいと思う。（神奈川県藤沢市）

オンラインでいいので、マンツーマンで子どものつよみを引き出してくれる場が欲しい。精神的に安定した大人とのかかわりを増やしたい（千葉県佐倉市）

子どもたちが自由に、楽しいと思える時間を作ってほしい。学校がルールなどによって窮屈な場所によりなってきたので、そのストレスフルな状態が放課後も続くとかなり苦しい状況になるのではないかと思う。（東京都渋谷区）

先日久しぶりに登室したらやはりお友達と遊べて楽しかったようです。久しぶりに行っても「おかえり」と迎え入れてくれて、子どもも親もほっとできるような…。「教室」とはやはり違う「居場所」であることを改めて感じました。（東京都渋谷区）

まずは安全を確保したうえで、子どもたちのやってみたいに寄り添ってほしい（神奈川県川崎市）

皆様の声を受けて

子どもが「自由で、楽しい」と思える放課後の居場所が求められる中、感染への心配に加え、場所・担い手・資金不足といった長年に渡る放課後の課題がその妨げになっています。全国各地で過密スケジュールとなった学校授業、夏休みの短縮・活動制限など、子どもたちは窮屈な想いで毎日を過ごしています。子どものストレス軽減、成長機会を止めないためにも遊び・学びにニューノーマルの導入が急務です。放課後NPOアフタースクールは、これからもより柔軟に手を取り合って子どもを応援する社会を目指してまいります。

〈子どもの様子・成長について〉

- ・友達と会話できない、校庭で自由に遊べない。文句ひとつ言わずに必死で適応しています。大人がしていないこと、守れていないことをここまで実施する必要があるのか疑問に思っています。引き続きオンライン授業の実現を目指して、いつでも再び分散登校に戻せるような体制作りを願っています。
(東京都世田谷区)
- ・お友達や先生はじめ、人と接する機会がどうしても減ってしまい、子どももストレスを感じている。かと言って積極的に友達と遊ばせるのも考えてしまうし、オンラインもどうかな…と思うし、おとしどころが自分の中で定まらず悩んでいます。(東京都豊島区)
- ・遊びの幅が狭まっていることや、他者とのコミュニケーションやスキンシップが大きく制限されている状況があります。健やかに育つだろうかと、ふと心配になることがあります。(千葉県千葉市)

その他保護者の皆様からのご意見

- ・子ども同士で遊べる機会、身体を動かしたり、発声する機会がないのが当たり前の状況が心配。また、お互い常時マスク姿で、子どもと地域との交流が減っており、このままそれが子どもの常識(倫理観)の社会になることに危惧を感じる。学校が万が一また休校になったら、各家庭で真空状態になる子どもと、どうつながるか。住んでいる地域や社会と子どもがつながる方法は無いのか、気になっている。(東京都大田区)
- ・今回の件で、子どもたちのインターネットに触れる機会が増大しました。外出できない、人に会えない状況の中で、非常に有難かったところもありますが、一方、今後子どもだけでオンライン学習やコミュニケーションを図っていく機会が増えるのであれば、ネットリテラシーについての教育が必要であると感じました。(千葉県千葉市)
- ・6月からは殆ど今まで通りの生活リズムに戻ってしまっただが、もっとゆとりを持った日々を過ごさせてあげるべきか悩む。子どもたちは現在高学年で、自分たちが中心となってイベントを作り上げる経験が少なくなってしまうことが、中高生になった時に影響ありそう。(神奈川県川崎市)

〈学校生活について〉

- ・分散登校で週2日の登校でしたが、平日の日中に学校に行かない子どもがいるというのは、実はとても意味があると思いました。学校に行かないことを選んでいる（いわゆるホームスクーラー）子が気まずい思いをしなくていいのではと。「学齢期の子は、平日日中は学校にいるもの」という通例がなくなったらそれはそれでいいのではと思います。「学校に通うこと」だけが学びではないというのは、今回痛感しました。時間があることで創作に没頭したり、自分の知りたいことを「探究」したり、まさに「自分の好きなことをつきつめる力」は「週5毎日学校」では、そして今の学校のシステムでは、逆に伸ばしきれないのではと思ってしまいました。「今日は親と美術館に行く」「自分の知りたいことを調べに〇〇へ行く」という「家庭での学び」を選ぶ日があってもいいのではと思います。そしてそれが「欠席」扱いにならなければと。学校としては全員が毎日来てくれたほうが統制もとりやすいのですが、働き方が多様化していくように、学び方も多様化していいのではないのでしょうか。また、教科書にのっていることを、12カ月に分けて、毎月の課題として進めていくのがカリキュラムも組みやすいのですが、今回家庭学習の時間があって、改めて教科書を読んでみて、果たしてこれをすべてこなすことが「学び」なのかな？とも思いました。先生の発想次第で、教科書から飛び出したっていいと思います。（東京都渋谷区）

■ その他保護者の皆様からのご意見

- ・ 学校が始まり、子どもは毎日友達とどんな話をしたか、今日の学校がどれほど楽しかったか、という話をしています。（中略）小学生の子どもにとって大切なのは「授業の遅れを取り戻す」ことではなく、「友達と過ごすこと」なんだと実感しています。授業数はどうでもいいので、子どもが心身共健康に過ごせることに学校は全力で取り組んで欲しいです。（東京都世田谷区）
- ・ 新しいクラスでの子ども達同士の触れ合いが以前のように出来ていない事が気になります。勉強は家でも出来ますが、学校でしか出来ない事が今出来なくなっていて心配です。（東京都板橋区）

〈仕事と育児の両立に不安〉

- ・ 六月まではテレワークが認められていましたが、七月からは毎日出勤（通勤二時間）に戻りますので、そこからの仕事と家事育児のオペレーションを考えると不安だらけです。幼稚園とは違い、勉強のフォローも日々のタスクに加わると思うと、本当に時間が足りないと思います。（兵庫県神戸市）